

第65期 報告書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

■ 株主の皆様へ



第65期報告書をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当期の連結業績

当期は、前期に実施した構造改革による効果やコストダウンの徹底により、売上高4,575億円、営業利益158億円、当期純利益104億円と、3期ぶりの営業利益、7期ぶりの当期純利益を達成いたしました。また、600億円の新株予約権付社債を償還するなど、損益面、財務面ともに大きく改善いたしました。しかしながら、当期の期末配当につきましては、現在の財務状況等を勘案し、遺憾ながら無配とさせていただきます。株主の皆様には、誠に申し訳なく深くお詫び申し上げますとともに、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今期の連結業績見通し

今期は、東日本大震災により自動車および当社製品の生産に必要な部品の調達に問題が発生するなど、上半期を中心にその影響を受ける見込みですが、在庫部品の利用、代

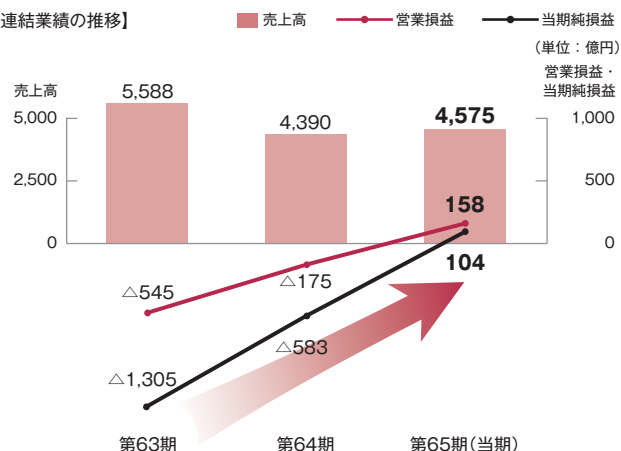
替部品への切り替え、現行モデルの拡販、新規モデルの追加および導入時期の変更などの挽回策を実施することで、業績に与える影響を最小限に抑えてまいります。さらに、継続したコストダウンに加え、次の施策を実施することで、通期では、売上増と営業利益増を達成する予定です。

新カテゴリー商品の導入

新市場を創造する商品、新機能を搭載した商品等、新カテゴリー商品を積極的に市場導入し、需要を喚起いたします。

本年4月、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモのスマートフォンで高精度な車両の位置情報や当社独自のスマートループ渋滞情報を利用できる“カロツェリア スマートフォンリンク ナビクレイドル”の販売を開始いたしました。また、車載カメラで撮影したフロントガラス越しの映像にルート案内情報等を重ねて表示する、AR（拡張現実）スカウターモードを搭載した“サイバーナビ”を発売するなど、カーナビゲーションの新しい世界を提案してまいります。

【連結業績の推移】



第65期の取り組みの成果

営業損益は3期ぶり、当期純損益は7期ぶりの黒字化。600億円の新株予約権付社債も償還し、損益面、財務面ともに大きく改善。

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモとの協業によりスマートフォン向けの新カーナビゲーション事業をスタート。

三菱化学株式会社との協業による有機EL照明の共同研究開発・事業化は順調に進捗。本年夏に蒸着型パネルの量産を開始予定。

また、ストリートダンサーをターゲットに、新ブランド“STEEZ”を立ち上げ、新しいコンセプトを加えたオーディオシステムを提案いたします。

薄型で豊かな低音を再生できるHVTスピーカーについては、すでに発売した車載用に加え、住宅設備専用オーディオ“ACCO”をはじめとしたホームAV商品にも展開してまいります。

さらに、次世代照明として期待される有機EL照明については、本年夏に蒸着型パネルの量産を開始し、三菱化学株式会社に対して供給を始める予定です。

海外市場での事業拡大

海外市場においては、高いブランド力と生産インフラの強みを活かし、事業の拡大を進めてまいります。

北米や欧州などの先進国では、市販カーオーディオにおいて、市場のボリュームゾーンでの商品強化を図るとともに、AVレシーバーの商品力・販売力を強化し、売上とシェアの拡大を図ってまいります。

中南米やアセアン、中近東など成長の著しい新興国でも、積極的に施策を展開してまいります。

ブラジルでは、市場ニーズに合致した商品を導入し、市販カーオーディオでのトップシェアを維持するとともに、現地の生産法人と販売チャネルを活かし、ホームAV事業の拡大を図ってまいります。

また、中国では、電器量販大手である蘇寧電器股份有限公司とのアライアンス強化により、展示店舗数の拡大、商品ラインナップの拡充、営業拠点数の増強、セールス・フォロー体制の強化などホームAV事業の強化を図ってまいります。さらに、カーOEM事業において、事業体制の強化を図るとともに、ディーラーオプションビジネスの拡大を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成23年6月

代表取締役社長

小谷 進

トピックス

“次のパイオニア”を発信する「パイオニア プラザ銀座」をオープンしました



オープン初日には1,000人を上回るお客様が来場されました。



次世代照明として期待される有機EL照明も体験できます。

本年2月、最新の技術や製品を通してパイオニアが創造する新しい価値やライフスタイルを体感できる情報発信基地「パイオニアプラザ銀座」をオープンしました。

東京 銀座のマロニエ通り
に位置するこの情報発信基地では、最新のパイオニア製品に加え、次世代の車載用表示デバイス“ヘッドアップディスプレイ”など最新技術の展示や、プライベート空間でヒーリングサウン

ドを楽しめるブースなど、当社が創造する新しい価値を体感できます。さらには、DJパフォーマンスやミュージックライブなど、若い人達にも気軽にエンタテインメントを楽しんでいただけるイベントを開催しています。

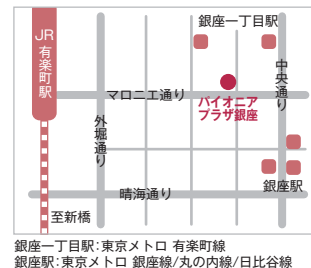
当社は、より多くのお客様に“今のパイオニア、これからのパイオニア”を知っていただくため、企業ビジョン“街でも家でも車でも、笑顔と夢中が響き合う”を体現した「パイオニア プラザ銀座」を通じて“次のパイオニア”を発信し続けます。

所在地:

東京都中央区銀座2丁目5番11号
デビアス銀座ビル 1F/2F/B1F

詳細は専用ホームページへ

<http://pioneer-ginza.jp>



銀座一丁目駅:東京メトロ 有楽町線
銀座駅:東京メトロ 銀座線/丸の内線/日比谷線

カーナビゲーションのエコ機能が評価され環境賞をダブル受賞しました



エコドライブを強力にサポートする“サイバーナビ” AVIC-VH9990

“サイバーナビ”は、当社独自の燃費推定技術とスマートループ渋滞情報により、走行する前から車ごとに最も燃料消費量の少ないルートを提案する、業界初^{*1}の「エコ・ルート探索」機能を搭載。一般的な燃費計やエコサポート機

能のように現在の燃費を知らせるのではなく、目的地までの燃費を予測する先進的なエコ機能です。

また、エコ指数やCO₂削減量、推定燃料費などさまざまな情報を、グラフィック表示や音声メッセージで走行中に確認できるエコステータス機能も搭載しています。

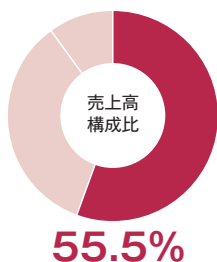
これらの機能が評価され、昨年10月、“サイバーナビ”3機種は2つの環境賞^{*2}をダブル受賞しました。

^{*1} 国内市販カーナビゲーションとして（当社調べ）

^{*2} グリーンITアワード2010（審査員特別賞）、
第12回グリーン購入大賞（審査員特別賞）

■ 事業セグメント別の概況(連結)

カーエレクトロニクス



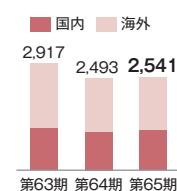
売上高は、円高の影響はありましたが、前期に比べ1.9%増収の2,541億円となりました。カーナビゲーションシステムの売上は、市販市場向けが主に国内で好調に推移しましたが、OEMが国内および中国で減少したことから減収となりました。カーオーディオの売上は、市販市場向けは、主に北米および欧州で増加したことから増収となりました。OEMは、中国で減少しましたが、国内および北米で増加したことから増収となりました。なお、カーエレクトロニクス全体の売上高に占めるOEMの売上構成比は、前期の約44%から約43%となりました。



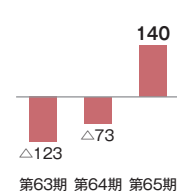
カーナビゲーションシステム

営業損益は、構造改革の効果やコストダウンによる原価率の良化に加え、売上の増加もあり、前期の73億円の損失から、140億円の利益となりました。

売上高(億円)



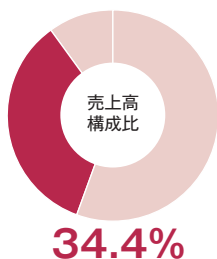
営業損益(億円)



主要製品:

- カーナビゲーションシステム
- コーステロ
- カーAVシステム
- コースピカー

ホームエレクトロニクス



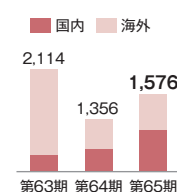
売上高は、前期に比べ16.2%増収の1,576億円となりました。これは主に、欧州および北米でプラズマディスプレイの売上減があったものの、ブルーレイディスクドライブ関連製品の売上が前期下半期に開始した光ディスク合弁事業により大きく増加したことや、北米を中心としたAVレシーバーの売上が増加したことによるものです。



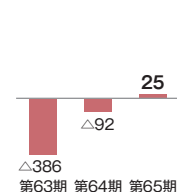
AVレシーバー

営業損益は、構造改革の効果による固定費の減少や売上の増加により、前期の92億円の損失から、25億円の利益となりました。

売上高(億円)



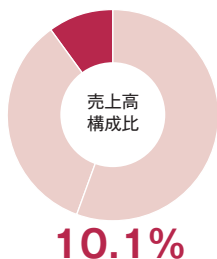
営業損益(億円)



主要製品:

- オーディオシステム
- オーディオコンポーネント
- DJ機器
- CATV関連機器
- ブルーレイディスクプレーヤー
- ブルーレイディスクドライブ
- DVDプレーヤー
- DVDドライブ
- AVアクセサリ

その他



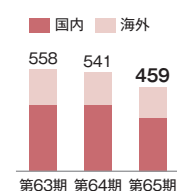
売上高は、FA機器の売上が増加しましたが、携帯電話用スピーカーユニットや業務用AVシステムなどの売上が減少したことから、前期に比べ15.3%減収の459億円となりました。



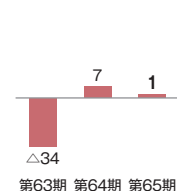
FA機器

営業利益は、構造改革の効果による固定費の減少はありましたが、売上が減少したことにより、前期の7億円から減少し、1億円となりました。

売上高(億円)



営業損益(億円)



主要製品およびサービス:

- FA機器
- スピーカーユニット
- 電子部品
- 有機ELディスプレイ
- 電話機
- 業務用AVシステム
- 地図ソフト
- 光ディスク関連特許の使用許諾

(注) 1. 各セグメントの営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表しています。

2. 従来「その他」に含まれていたAVアクセサリを、当期から「ホームエレクトロニクス」に含めています。これに伴い、過去の金額についても、当期の表示に合わせて組替表示しています。

■ 連結財務諸表の要旨

連結貸借対照表

	(単位:百万円)	
	第65期 平成23年3月31日現在	第64期 平成22年3月31日現在
流動資産	189,475	233,873
固定資産	120,056	155,528
繰延資産	181	318
資産合計	309,712	389,719
流動負債	162,293	199,167
固定負債	58,965	99,898
負債合計	221,258	299,065
株主資本	160,948	150,599
その他の包括利益累計額	△75,934	△63,439
少数株主持分	3,440	3,494
純資産合計	88,454	90,654
負債純資産合計	309,712	389,719

POINT: 資産合計は、現預金の減少や、旧日本社等の売却、設備投資の抑制等による有形固定資産の減少等により減少しました。負債合計は、新株予約権付社債の償還や借入金の返済等により減少しました。純資産合計は、当期純利益を計上したものの、円高による為替換算調整勘定の減少等により減少しました。

連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位:百万円)	
	第65期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	第64期 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	37,454	7,956
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,886	△8,432
財務活動によるキャッシュ・フロー	△74,244	21,846
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,672	△974
現金及び現金同等物の増減額	△36,576	20,396
現金及び現金同等物の期末残高	47,566	84,142

POINT: 新株予約権付社債の償還および借入金の返済等にキャッシュを使用したことや、円高の影響で外貨建の現金及び現金同等物の評価額が減少したことなどにより、現金及び現金同等物の期末残高は減少しました。

連結損益計算書

	(単位:百万円)	
	第65期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	第64期 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
売上高	457,545	438,998
売上原価	356,449	366,165
売上総利益	101,096	72,833
販売費及び一般管理費	85,279	90,347
営業損益	15,817	△17,514
営業外収益	1,943	2,422
営業外費用	5,429	9,648
経常損益	12,331	△24,740
特別利益	10,626	10,931
特別損失	5,027	35,721
税金等調整前当期純損益	17,930	△49,530
法人税等	7,157	8,444
少数株主利益	423	302
当期純損益	10,350	△58,276
(ご参考)包括利益	△1,883	△57,915

POINT: 売上高は、前期にプラズマディスプレイから事業撤退したことによる売上減や円高に加え、東日本大震災の影響があったものの、ブルーレイディスクドライブ関連製品の売上が好調に推移したことから、4.2%の増収となりました。

利益については、震災の影響はありましたが、構造改革の効果やコストダウンによる原価率の良化や販売費及び一般管理費の減少に加え、売上増もあり、営業損益、経常損益、当期純損益ともに黒字に転じました。なお、前期の特別損失には構造改革費用が含まれています。

株式の状況(平成23年3月31日現在)

■ 発行済株式総数 326,093,836株

(注)発行済株式総数には自己株式5,023,278株を含んでいます。

■ 株主総数 46,318名

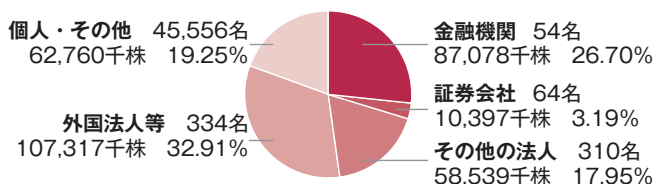
■ 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
シャープ株式会社	30,000	9.34
ザチエースマンハッタンバンクエヌエイ ロンドン エスエル オムニバス アカウント	21,437	6.67
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	20,337	6.33
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	18,422	5.73
本田技研工業株式会社	14,700	4.57
三菱電機株式会社	7,530	2.34
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,490	2.02
バイオニア従業員持株会	3,921	1.22
JPモルガン証券株式会社	3,802	1.18
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー	3,744	1.16

(注)1. 持株比率は、平成23年3月31日現在の発行済株式総数から自己株式数を控除して算出しています。

2. 当社は、自己株式を5,023千株所有していますが、上記大株主には含めていません。

■ 所有者別分布状況



(注)1. 百分率は、平成23年3月31日現在の発行済株式総数に対する持株比率です。

2. 「個人・その他」には自己株式5,023千株(持株比率1.54%)を含んでいます。

役員(平成23年6月29日現在)

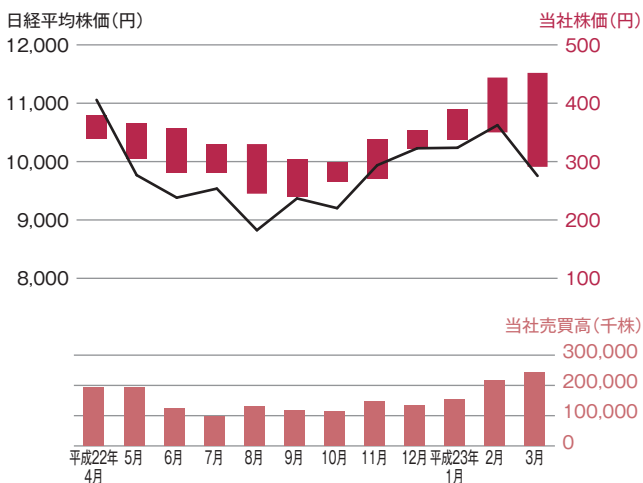
※取締役社長	小谷 進	常務執行役員	峯田 裕之
※専務取締役	岡安 秀喜		井下 源
※常務取締役	小野 幹夫		檀上 康彦
常務取締役	松本 智	執行役員	山内 慶一
	小勝負 雅典		栗山 和己
	竹内 立男		齋藤 春光
取締役	川尻 邦夫		川村 雅弘
	黒崎 正謙		釣谷 郁夫
	大泉 隆史		加瀬 政雄
	谷関 政廣		下田 幹雄
常勤監査役	伊藤 敏行		
監査役	錦戸 景一		
	井上 寅喜		

(注)1. ※印は代表取締役です。

2. 大泉隆史および谷関政廣は、社外取締役です。

3. 錦戸景一および井上寅喜は、社外監査役です。

■ 株価および売買高



(注) 株価および売買高は東京証券取引所におけるものです。

パイオニア株式会社

■ 会社の概要(平成23年3月31日現在)

商号	パイオニア株式会社 PIONEER CORPORATION
本社所在地	〒212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号 電話(044)580-3211(代表)
創業	昭和13年1月1日
設立	昭和22年5月8日
資本金	872億5,714万3,230円
従業員数	4,115名(単独) 26,785名(連結)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)
証券コード	6773

■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社

株式に関するお手続きについて

- 住所変更、買取・買増請求、その他各種お手続きについては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせ下さい。
- 特別口座に記録された株式に関するお手続きについては、下記の特別口座管理機関にお問い合わせ下さい。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
電話 0120-232-711
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)

ホームページのご案内

<http://pioneer.jp>

(投資家情報 <http://pioneer.jp/ir/>)

当社へのお問い合わせ先

コーポレートコミュニケーション部 証券業務課

電話(044)580-3211(代表)

E-mail: pioneer_shr@post.pioneer.co.jp



当報告書は環境に配慮した大豆油インキを使用しています。